

2015年9月以降に当センターにおいて

病理解剖をお受けになった患者様のご遺族の方へ

(1) 研究の概要について

当センターでは「ヒト副腎組織の慢性ストレス変化と関連する臨床検査項目の検討」というテーマで研究を実施しております。副腎は生命活動に重要な複数のステロイドホルモンやカテコラミンを合成・分泌しています。ストレス下では視床下部・下垂体・副腎皮質系が活性化し、副腎皮質でコルチゾールというステロイドホルモンの合成・分泌が促進されます。長期重症疾患のようなストレス負荷状態が持続すると、ステロイドホルモンの材料となる副腎皮質の細胞内脂肪滴が枯渇し細胞質が好酸性の「**Lipid depletion (脂肪滴枯渇)**」という状態になることが知られています。このように、副腎は慢性ストレスを組織学的に確認できるユニークな臓器です。しかし、副腎組織で確認できる慢性ストレス変化(**Lipid depletion**)と臨床診療での臨床検査項目(一般血液検査、**BMI** など)との関連は不明です。

本研究は、当センターで施行された病理解剖例の副腎組織や生前の診療・入院時データを用いて、慢性ストレス変化と関連する臨床検査項目について検討する予定です。具体的には2015年9月以降に東京都健康長寿医療センターで病理解剖された方が研究の対象となります。

病理解剖のご承諾の際に医学研究へのご協力にもご承諾いただいておりますが、改めて研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を承りますようお願い申し上げます。

この研究への協力承諾の撤回を希望される場合や、また研究に関するご質問がある場合には、下記の問い合わせ先へご連絡ください。

研究題名：「ヒト副腎組織の慢性ストレス変化と関連する臨床検査項目の検討」「承認番号：第〇〇番」(〇〇は承認後に記入)

研究期間：承認後～2029年3月31日

研究責任者(所属・職名・氏名)

東京都健康長寿医療センター 研究所・老年病理学研究チーム 研究員 野中敬介

(2) 研究の意義・目的について

剖検例の副腎組織の慢性ストレス変化(**Lipid depletion**)と相関する生前の臨床検査項目(一般血液データや **BMI** など)を調査し、慢性ストレスの指標となり得る検査項目を探索することが本研究の主な目的です。また、慢性ストレス下における副腎組織の変化も検討する予定です。本研究は副腎組織でしか確認できない慢性ストレスを一般的な臨床検査項目と紐づけることで、一般的な検査項目から慢性ストレスの状態を評価・予測できるようになる

可能性があるため、慢性ストレスの改善・予防の点から意義深いと思われます。

(3) 研究の方法について

2015年9月～2025年12月に当センターで病理解剖を受けられ副腎を採取した患者529例を対象とします。そのうち、副腎組織がほぼ正常もしくは慢性ストレス変化を示す症例を選出します。各症例について生前の臨床検査項目[年齢、Body Mass Index (BMI, kg/m²)、死因、既往歴、一般的な血液検査項目など]を調べ、男女別で2群間比較を行う予定です。副腎組織を用いて、細胞老化マーカーの発現レベルの評価や電子顕微鏡を用いた観察も行う予定です。

(4) 資料の保管と、他の研究への利用について

本研究を行うときには、個人情報とは完全に分離した形で扱っておりますので、患者様の個人情報が漏れる心配はありません。また、国内外に研究の成果を論文・学会等で発表する場合も、個人の特定はできないようにしております。他の研究への利用はありません。なお、研究終了後のデータの扱いについては、論文の根拠となるデータは発表後、5年間保管します。保管責任者は研究責任者とし、保管場所については東京都健康長寿医療センターの所定の場所で、厳重に保管します。

(5) 資料の入手または閲覧、開示

本研究の計画や方法についてはご遺族の希望に応じて、資料の要求または閲覧ができます。本研究の結果を知りたいと希望される場合は、研究担当者はその旨をお伝え頂ければ、他の研究対象者に不利益が及ばない範囲で、研究結果をお伝えします。希望された資料が他の研究対象者の個人情報を含む場合には、資料の提供または閲覧はできません。

(6) 問い合わせ先

東京都健康長寿医療センター研究所 老年病理学研究チーム 野中敬介

〒173-0015 東京都板橋区栄町 35-2

電話 03-3964-3241 内線 4415 (PHS 62241) (平日 9:00～17:00)